

「森孝中学校における小学校の統合に関する説明・意見交換会」 の開催結果

令和2年2月1日（土）に森孝中学校体育館で森孝中学校ブロックの保護者及び地域の方を対象とした「森孝中学校における小学校の統合に関する説明・意見交換会」を開催しました。

当日、会場で発言していただいたご意見、アンケートに記載していただいたご意見とそれに対する名古屋市教育委員会の考え方をまとめました。

なお、ご意見の内容について、趣旨の類似するものはまとめさせていただいたほか、原文を一部要約し、また分割して掲載しておりますのでご了承ください。

日時：令和2年2月1日（土）10：00～11：15

場所：森孝中学校体育館

参加人数：47人（保護者38人、地域住民9人）（本地丘1人、森孝東13人、森孝西33人）

区分	本地丘	森孝東	森孝西	合計
保護者	1人	10人	27人	38人
地域住民	0人	3人	6人	9人
合計	1人	13人	33人	47人

◆お問い合わせ先

皆さまからのご意見やご質問については、EメールまたはFAXで受け付けています。

名古屋市教育委員会事務局総務部教育環境計画室

Eメール：a3282@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

FAX：052-972-4176 TEL：052-972-4092

1 統合の必要性・学校規模の考え方に関すること

- ・少人数学級は子どもに息苦しさを与える。固定したメンバーでは逃げ場がない。たまたま集まった同学年の中に必ず気の合う人がいるとは限らない。
- ・子ども同士は人数が多いと友達が増えてよいと思う。
- ・子どもが少なくなっているので、統合は仕方ないと思う。
- ・小規模校のメリットもあると思うので、クラス数だけが少ないのが問題とは限らないのではないかと。
- ・統合後も1クラスの人数を20人～30人ほどにしてほしい。40人クラスとなるとデメリットを感じる。

- ・望ましい学校規模についての根拠や検証が不十分である。海外では競い合うよりも少人数できめ細やかに対応できる方が望ましいとされている。
- ・なごや小のアンケートにおいて、20 人程度の子どもたちが、人数が増えたことによる否定的な意見を持っている。人数が多くなったことで教師が全体に目を通すことができないのであれば、小規模校存続と状況が変わらない。

教育委員会の考え方

- ・小学校では、子どもたちが集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することが大切であると考えており、その教育効果を上げるためには、一定の学校規模が必要と考えています。
- ・教育委員会では、小学校では 12 学級以上を望ましい学校規模と考えていますが、国（文部科学省）においても平成 27 年に「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」が策定され、同様の考え方が望ましいとされています。
- ・小規模校には、「学校行事で活動の場を与えやすい」、「一人ひとりの子どもにきめの細かい指導がしやすい」といったよさがありますが、その一方で、「クラス替えができないことにより人間関係の固定化が生じやすい」、「体育の球技などの集団学習、班活動やグループ分けなどに制約が生じる」、また、「指導上課題がある子どもの問題行動にクラス全体が影響を受けやすくなる」といった課題などがあります。
- ・3 つの小学校が統合した西区のなごや小学校（以下「なごや小」といいます。）の子ども・保護者に対するアンケートでは、子どもたちは統合により「新しい友達ができうれしい」、「授業が楽しくなった」、「休み時間に遊ぶ友達や遊びの種類が増えた」、「行事（遠足や運動会など）で人数が増えて楽しくなった」、「たくさんの先生と話ができるのでよかった」といった声を多くいただいています。
- ・教育委員会では、本地丘小学校（以下「本地丘小」といいます。）、森孝東小学校（以下「森孝東小」といいます。）、森孝西小学校（以下「森孝西小」といいます。）それぞれの学校のよさを継承・発展させながら、子どもたちにとってよりよい教育環境にしていくため、どの学年でもクラス替えのできる規模が確保できるよう統合することが必要と考えています。
- ・本市では、小学校 1 年生・2 年生での 30 人学級、小学校 3 年生以上は 40 人学級を基準とした学級編制を行っています。統合に向けては、この基準に基づき、全学年でクラス替えが可能となる 12 学級以上の学校規模にしていきたいと考えています。
- ・なごや小のアンケートでは、クラスや学年の人数が増えたことについての質問に対し、2・3 年生では 8 人（全体の 6.8%）、4～6 年生では 16 人（全体の 8.3%）が、「クラスや人数が増えないほうがよかった」と回答しています。一方、「クラスや人数が増えてよかった」との回答は、2・3 年生で 92 人（全体の 78.6%）、4～6 年生で 144 人（全体の 74.5%）となっています。

2 統合（案）に関すること

（１）統合相手校・統合場所

- ・位置としては、森孝中の場所がほぼ中心になるのでよいと思う。
- ・小中一貫なのか別々なのか。小中併せての統合は決まった話なのか。小学校だけの統合案はないのか。
- ・学校の位置が中央といった距離だけではなく、他の事のほうがもっと大事かと思う。
- ・3 小学校だけ統合したらよいとの意見があるので、検討してほしい。3 つの小学校は統合したうえで、小学校・中学校は別でよい。
- ・中学校の場所に小学校を併設するとなると、敷地面積が狭く現実的ではないのではないか。森孝東小の場所で3小統合したほうがいいのかと思うが統合案は変わらないか。
- ・森孝東小で3校統合する案も検討してほしい。
- ・森孝西学区の端から森孝東小へも約2 kmの通学距離に当てはまるのではないか。
- ・森孝中学校の施設改良をしてもらえるのなら、統合は賛成。別グループの意見で、まず、小学校だけの統合として、森孝東小に3校をまとめる案にも大賛成。意見を聞いていて、よくよく考えると、中学校と小学校では違うので、混ぜるのは色々無理があるように思えてきた。
- ・森孝中の場所に統合する小学校を配置し、森孝西小（森孝東小）の場所に森孝中を配置してはどうか。中学生は長い距離を歩ける。
- ・統合については特に反対はないが、歴史的経緯を踏まえて、森孝西小を天子田小に統合（大森中・森孝中も併せて検討）するということはないのか。一つの中学校の中でと考えているが、もっと範囲を広げて考えることが必要でないか。学区で中学校が分かれてもよいと思う。また、小学校区を再編成することもあり（森孝西学区を森孝と四軒家で分ける）かと。
- ・中学校の学級数が令和7年には6学級となる。下限となるが、この先のビジョンは。10年先を考え、中学校の統合も考えた案が知りたい。大きな投資をするので、場当たり的な投資とならない事を知りたい。
- ・今のペースで生徒数が減っていくと、10年くらいで2学級を維持できなくなるのではないか。
- ・区の枠を超えた検討で、通学距離を短くできると思う。

教育委員会の考え方

- ・森孝中学校（以下「森孝中」といいます。）の場所での統合を選定した理由は、①森孝中ブロックの小学校が全て小規模校であり、森孝東小と本地丘小の統合では12学級以上とならないこと、また森孝西小も今後、小規模校が解消される見込みがないこと。②3つの小学校の統合を検討する上で、森孝中の場所が森孝中ブロックのほぼ中央に位置しており、徒歩を基本とする通学距離が、教育委員会が目安とする概ね2 km以内となることです。なお、森孝東小での統合を想定した場合には、森孝西学区の最も遠い地点からの通学距離は2.2 kmとなります。
- ・令和7年度の森孝中の生徒数は200名程度と見込んでおり、3つの小学校が統合したと想定した場合の児童数400名程度と合わせ600名程度の児童・生徒数となる見込みです。現在の森孝中の校地

の中で、施設の配置や整備を工夫しながら、小学校と中学校を併設することによるよさが発揮される学校となるよう検討していきたいと考えています。

- ・森孝西小は昭和 55 年に天子田小学校（以下「天子田小」といいます。）から分離新設されました（天子田小は大森中学校ブロックです。）。本地丘小、森孝東小、森孝西小の 3 校は、昭和 56 年に開校した森孝中ブロックの小学校として 40 年にわたる歴史があり、森孝西学区もその中で地域活動が行われてきました。こうした経緯を踏まえ、また森孝中の今後の生徒数を見通し、統合（案）を作成しました。
- ・森孝中は令和 7 年度に 6 学級、生徒数は 197 人と見込んでおり、現在の本市での中学校の学級編制の基準（中学校 1 年生は 35 人学級、中学校 2・3 年生は 40 人学級）で見ても、クラス替えのできない学年が生じるということは、現時点では想定していません。

（２）通学距離・安全対策

- ・通学距離はどのように計測したのか。
- ・2 kmの基準そのものが、様々な地域の事情を加味して決められた厳し目の数値だと思う。
- ・自分の子どもが小さいので、低学年時に小学校が移転してしまうと、通学にとっても心配である。実際に家から歩いてきたが、坂もあるため、決して楽に来られる距離ではなかった。子どもの命にもかかわることがあるので、慎重に考えてほしい。
- ・保育園を卒園して、いきなり本地丘学区から森孝中まで歩くのはかなり無謀である。
- ・通学距離が長くなり通学路も変更することになるが、通学安全への配慮について知りたい。
- ・通学路の安全配慮について、他の学校とは状況が全く違うので、どのような配慮をするか具体的に考えてほしい。
- ・通学時の安全確保については、保護者に負担をかけることなく、行政・警察で協力して尽力していただきたい。
- ・森孝中学校の通学路で、北側の門から東へ向かう歩道がマンションの陰になって狭いことや、冬に雪が降ると凍ってしまい滑って転倒する危険がある。
- ・通学路が狭いので、その部分だけ安全に対する配慮をしてもらえれば、後は賛成である。

教育委員会の考え方

- ・通学距離については地図ソフトを用いて計測しています。
- ・教育委員会では、通学は徒歩を基本とし、小学校の場合の通学距離は概ね 2km を目安としています（国は小学校 4km としています。）。市内には 2.0km を大きく超えて通学する児童の在籍する小学校もありますが、ほとんどの小学校において 2.0km という目安の範囲内に収まっていることから、設定しました。
- ・統合により通学距離が長くなり、通学路もこれまでとは異なることとなりますので、子どもたちへの負担に配慮することや、安全面での対策を講じることは大変重要であると考えていま

す。

- ・通学における子どもへの負担という点では、現在も各学校で登下校時の荷物の問題や熱中症への対策に取り組んでいますが、それぞれの取り組みを持ち寄りながら、新しい学校での対策について検討したいと考えています。
- ・通学路上の交通安全の確保については、学校での安全指導はもとより、警察・土木事務所など関係行政機関との連携や、家庭（保護者）・地域のご協力もいただきながら取り組みたいと考えています。
- ・なごや小の場合には、次のような安全対策の強化を図りました。①狭い歩道へのガードパイプの設置、②横断歩道の設置、③注意表示の設置、④歩行者先出信号の設置、⑤自転車専用レーンの設置、⑥青信号の時間延長、⑦道路へのカラー舗装、⑧通学練習会の実施
- ・不審者等に対する登下校時の安全確保として、現在も「子ども安全ボランティア」による見守り活動や、子どもが身の危険を感じた時に駆け込める「子ども 110 番の家」などがあります。こうした取り組みを踏まえながら、学校・家庭（保護者）・地域の皆さまとともに検討していきたいと考えています。
- ・通学については、なごや小のアンケートでも、当初、学校が遠くなることを心配していた子どもはいましたが、統合し、新校舎に変わった後は、多くの子どもは心配がなくなったと回答しています。回答の中には「学校まで遠くなったけど、遠くなった分だけ友達と話せるから楽しいです」という子どもの声や、「学校が遠くなって友達とおしゃべりして、とても楽しそうに家に帰ってくるようになった」という保護者の声もありました。なごや小の事例も参考にしながらこの地域の道路状況等を踏まえ、子どもたちが安全に、また安心して通学できるよう検討していきたいと考えています。

（３）小中併設の学校運営

- ・小中一貫校となったとき、校長・教頭などは小中別になるのか。
- ・小学生と中学生が一緒にいることのリスクもあるのではないかな。
- ・小学校・中学校が一緒に過ごすことで安全面の確保だけはお願したいと思う。
- ・中学生のメリットが分からない。小学生と一緒に過ごすことになり、制限が増えるだけではないかな。
- ・統合後、中学校のテスト期間中に、小学校の活動に制限が出るのではないかな。
- ・小１と中３が一緒になることへの影響についての検証が不十分である。
- ・笹島小中をモデルにしているようだが、規模が全然違うために参考にならない面が多い。
- ・公立の学校に通う子どもを小中一貫の実験台にしないように。
- ・先生の人数の配置を統合した時は増やしてほしい。担任を持たずに全体を見る先生がほしい。
- ・笹島小中での課題及びその解決方法について聞きたい。
- ・笹島小中の保護者や子ども達の意見を知りたいので、アンケートなどがあれば内容を教えてほしい。

また、教員配置はどのようなになるのか。

- ・統合済の小学校について、保護者等のアンケートだけでなく、統合済の中学校についてもアンケートをしてほしい。
- ・統合した学校の校長やPTAの意見が聞けるとよい。
- ・小中併設校にするという方向で進むのならば、実際に見学をして、子どもたちの生活の様子を知りたい。

教育委員会の考え方

- ・統合（案）では、小学校と中学校の併設という形でお示ししましたが、小中併設の場合には、同じ教育目標のもとに小学校・中学校それぞれの教職員が9年間を見通し、連携しながら教育活動を行う学校としていくことを想定しています。名古屋市では、笹島小学校・笹島中学校（以下あわせて「笹島小中学校」といいます。）がこのような形で運営されており、「小中一貫教育校」と呼んでいます。
- ・笹島小中学校では、校長は小学校長・中学校長を兼務していますが、それぞれの学校に教職員組織があり、連携しながら学校運営が行われています（教頭は、小中それぞれに配置されています。）。小学校・中学校それぞれの教育課程があり、小学校の卒業式、中学校の入学式もあります。（この他に、修業年限を9年とする「義務教育学校」という校種の学校もありますが、現在名古屋市立学校にはありません。9年間子どもたちが学校生活を送るという点では小中一貫教育校と似ていますが、1つの学校であるため途中で卒業式や入学式は想定されていません。）
- ・小中一貫教育校では、「小から中への移行によって生じる子どもの心理的負担を軽減し、小中学校がスムーズに連携できる」、「小中学校の教職員の協同体制により、継続的に学習や生活指導ができる」というよさがあります。
- ・笹島小中学校では、小学校・中学校は同一校舎です。普通教室は小学校低学年・高学年・中学校とフロアを分けて利用しています。職員室は一つとなっており、小学校・中学校それぞれの教職員が情報共有を図りながら連携し、指導を行っています。同校では、①小学生、中学生の時間割が違うため、小学生はチャイムで行動し、中学生は時計を見ながら行動する（学校によっては、チャイムを鳴らし分けているところもあると聞いています。）、②小学生と中学生と一緒に学校生活をする上で、時間割の違いなどもあるが、中学生は小学生がいることを前提としながら考え、行動できている、③運動会は小中合同で実施しているが、生徒会や集会などは小中で分けるなど、子どもの発達段階や教育上の効果を考慮しながら教育活動を行っている、④PTAは小中で一つの組織となっている、という形で学校運営が行われています。
- ・小学校の統合を契機に9年間の子どもたちが通う学校として、今年度開校した他都市の義務教育学校に聞いたところ、学校生活の中で小学生に当たる学年の子どもが中学生に当たる学年の子どもから良くない影響を受けるようなことはなく、むしろ上の学年の子どもが小さい子の面倒をよく見てくれているとのことでした。また、仮に指導上の必要が生じた場合にも、指導に当たりや

すい体制であるとお話でした。

- ・3つの小学校と森孝中の併設による小・中学校において、どのような学校運営・PTA活動等を行っていくのかについては、3つの小学校・森孝中の教職員や保護者の皆さま等とともにステップ5において具体的に検討していきますが、小中併設のよさが発揮されるような学校づくりをしていきたいと考えています。
- ・中学生への小学校方式での給食の提供については、笹島小中学校（小学生は給食、中学生はスクールランチ）や他都市の状況を踏まえ、子どもたちや保護者の意見も伺いながら、今後検討していきたいと考えています。
- ・笹島小中学校を始め小中併設における学校運営についてさらに詳しく知っていただけるような情報提供のあり方は、今後検討したいと考えています。

（４）施設整備

- ・どのような校舎になるのか、具体的な整備内容が知りたい。校舎は小と中で一緒なのか別々なのか。
- ・現在の中学校の校舎はそのままなのか。また、グラウンドや体育館はどうなるか。
- ・中学の敷地内に9学年全員は難しいのでは。グラウンド、体育館棟の施設の使用は併用なのか。
- ・小と中が一緒だと、グラウンドの広さの問題が生じる。
- ・小学校3校を、森孝東小にて統合するのが無難だと思う。森孝中にすべて集めるのは、「敷地条件等で特に有効な場合」に全く当てはまらない。グラウンド、体育館など今の敷地では、小学校・中学校での使用は現実的ではないのではないか。部活の実施はどうするのか。今でも狭いと感じている。
- ・中学校の土地をこれ以上広げることができるのか。
- ・工事期間中の学校生活への配慮について知りたい。
- ・工事期間中はどのような影響が考えられるか。
- ・中学校の受験生に負担を与えないように改築工事を検討してほしい。
- ・森孝中学校の横に住んでいる。改修工事等で騒音、ほこり等が心配。

教育委員会の考え方

- ・統合（案）では、現在の森孝中の敷地を最大限活用し、効果的な空間利用を含めた整備手法を検討したいと考えています。このため、現在の校舎、体育館、格技場を含めた大きな整備工事が必要と考えています。
- ・どのような校舎配置とするのか、体育館などの利用形態をどうするのかについては、これから検討した上で、皆さまにお示ししたいと考えています。
- ・他都市の学校や笹島小中学校では、跡地となった小学校を中学校部活動等のため第二グラウンドとして利用している例もあります。こうした事例も参考としながら、施設整備の検討をしていき

たいと考えています。

- ・整備工事については、子どもたちの安全確保を第一に考えるとともに、中学生の学校生活への負担ができる限り小さくなるよう配慮しながら検討したいと考えています。
- ・整備工事に当たっては、近隣住民の方への影響にも配慮しながら、検討してまいります。

3 取り組みの進め方・スケジュールに関すること

- ・スケジュールについて知りたい。笹島小中ではどうだったのか。ステップごとのスケジュールがあれば併せて知りたい。
- ・全体的なスケジュールの案もなしには意見の出しようがない。
- ・統合は大賛成。すぐにでも前に進めていただきたいと思う。
- ・6年も先だと長すぎる感が強い。統合は早いほうがよい。
- ・施設やグラウンドの共有に伴う不便さ、狭さの課題は、知恵を出し合って解決策を考えていけばよい。まずは「決めて」、進めていくべき。小規模校の弊害を早く解消することが優先。
- ・統合するかどうかを決めた上で、サブグラウンドが必要などの意見を出し合えばいいのではないかな。
- ・時間をかけ意見の取りまとめをしないといけない問題ではないかな。
- ・まず、賛成か反対か皆の意見を聞いてほしい。賛成の場合も、小学校のみの統合か小中統合かもアンケートをとってほしい。
- ・実際に統合された側の当事者の意見や感想が聞きたい。子どもたちが、将来、この学区で子育てしたいと思われるようにしてほしい。
- ・おそらくこれは話が進んでいくのだと思う。保護者としてすべきことがあれば教えてほしい。
- ・統合についてどのような状況か聞けて良かった。
- ・説明については冊子を読んでいるだけで、こちらが知りたい情報に触れられなかった印象。

教育委員会の考え方

- ・スケジュールは、小中併設の整備手法等の内容が決まった段階（ステップ3）でお示ししたいと考えていますが、小学校3校を統合したなごや小では、検討開始から新しい校舎で子どもたちが一緒に生活を始めるまでに6年ほどかかりました。笹島小中学校は、中学校の場所で、小学校2校の統合校と中学校を併設整備していますが、開校までに6年ほどかかっています。
- ・今回の説明・意見交換会はステップ1で実施したのですが、ステップ2において学識経験者等の意見を聞くプロセスを経た後、ステップ3（校舎等の整備計画やスケジュールを含む個別プランを保護者・地域の皆さまへ説明・協議する段階）を、令和2～3年度に実施できるよう検討していきたいと考えています。
- ・説明・意見交換会では時間が限られていたこと、またご参加いただくことができなかった方に向けて、「たより」を作成しました。保護者の方へは学校を通じての配付、地域の皆さまへは

地域回覧をさせていただくとともに、市公式ウェブサイトでも情報提供いたします。なお、市公式ウェブサイトでは、今後とも随時、情報更新を行っていきます。

- ・統合における子どもや保護者のご意見については、なごや小アンケートをご覧ください。

4 地域に関すること

- ・地域の高齢者やボランティアの参加や力をつける方法も考えて、子どもの成長・教育に関わることが統合の成功につながるように思う。
- ・統合すると、PTAや地域のつながりが薄くなるのではないか。今でもかなり意識の高くない地域である。子どもを守るための統合が、子どもを見捨てる統合にならないでほしい。

教育委員会の考え方

- ・なごや小では、子どもを守るために、地域の方の協力で交通指導が行われています。統合により3つの学区が一つの小学校とかわる形になりますので、学校と地域との関係が統合を契機に一層深めていくことができるよう新しい学校づくりに向けての協議を行う段階（ステップ5）では、関係する学校・学区の保護者・地域の皆さまとともに検討したいと考えています。

5 跡地に関すること

- ・跡地について、今後どのように活用するかを検証が不十分である。このような段階で説明会を開催しているが、様々な検証が不十分である。
- ・跡地の利用について、一部でもいいので保育園の送迎に利用できる駐車場としてほしい。

教育委員会の考え方

- ・統合により使用しなくなる校地や校舎は、防災拠点等、地域の防災機能に配慮しながら、余剰となる資産の有効活用を全市的な視点で検討します。跡地となった旧施設の管理を含め、地域の皆さまのお声も伺いながら、検討したいと考えています。

6 その他

（1）トワイライト・学童保育

- ・トワイライトスクールはどうなるのか。これを機にトワイライトルームになるとうれしい。
- ・森孝東学童保育所は、森孝東学区内で森孝東、森孝西、本地丘小の児童を受け入れている。統合にあたり、放課後も安心・安全に留守家庭児童が過ごせるよう、使用しなくなる校地を提供してほしい。

教育委員会の考え方

- ・統合を進めるにあたっては、トワイライトや学童を所管する子ども青少年局や区役所に情報提供を行いながら、連携していきたいと考えています。